

令和 4 年

第 6 回教育委員会会議録

(開会 令和 4 年 5 月 23 日)

(閉会 令和 4 年 5 月 23 日)

岐阜県可児市教育委員会

令和4年5月23日午前9時00分開会

会場：市役所4階第3会議室

出席委員

堀部好彦君（教育長）

小栗照代君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）

丹羽千明君（教育委員）

長井知子君（教育委員）

説明のために出席した者

渡辺勝彦君（事務局長）

佐野政紀君（学校教育課長）

上北泰久君（学校教育課主任指導主事）

真野純次君（学校教育課指導主事）

木村千恵君（学校教育課学校支援係）

飯田晋司君（教育総務課長）

佐藤一洋君（学校給食センター所長）

三宅愛彦君（教育研究所主任指導主事）

福田真弓君（学校教育課学校支援係長）

出席委員会事務局職員

木村彰伯君（教育総務課総務係長）

小池拓哉君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

1 開 会

2 前々回会議録の承認

3 教育長報告

4 教育委員報告

5 議 事

①報告第8号 可児市学校給食センター運営委員会委員の解嘱及び委嘱について
(原案承認)

②議案第14号 令和4年度岐阜県教科用図書可茂地区採択協議会の設置について
(原案可決)

③議案第15号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
(原案可決)

6 各課所管事項

7 委員からの提案協議事項

8 その他

9 閉 会

開会の宣告

- **教育総務課長（飯田晋司君）** おはようございます。
本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。
定刻になりましたので、教育委員会会議を始めさせていただきます。
なお、小栗委員におかれましては、土曜日に御連絡いただきまして、一、二時間ほど遅れてみえるということでございますので、御承知おきお願いいたします。
それでは、堀部教育長よろしくお願ひいたします。
- **教育長（堀部好彦君）** おはようございます。
第6回の教育委員会会議を開催させていただきます。
定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということによりよろしくお願ひいたします。

前々回会議録の承認

- **教育長（堀部好彦君）** 前々回会議録の承認につきまして、教育総務課長お願ひします。
- **教育総務課長（飯田晋司君）** 前々回の会議録でございますが、変更はございません。
- **教育長（堀部好彦君）** 変更はなしということによりよろしくお願ひいたします。

教育長報告

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、私の教育長報告でございますが、本日3点お願ひをします。

1点は、最近出会った瀬田幼稚園駐車場の風景を紹介させていただきます。これは研究所の運営委員会でも少しお話をさせていただいたんですけれども、何かまだ言い足りなくてというか、印象が僕は物すごく残っていて、皆さんに紹介をさせていただきたいということです。

通勤路に、瀬田幼稚園の駐車場のすぐ近くを通りますが、先週、朝いつものように車を運転しておりましたら、父親と思われる方が車を降りて、後ろの席に乗っている女の子を抱きかかえ、それから幼稚園で使うと思われるいろんなものが入ったかばんを持って、それで慌てて走りながら幼稚園の玄関に向かう姿に出くわしました。そのときの様子が何とも言えなくて、子供はこういうふうを抱えて、僕のほうに子供の顔が見える。お父さんと思われる方は、顔は見えなかったんですけど、背中が見える。その子の顔が何かここにこしながら、慌てて小走りで行くもんですから体全体が揺れる。お父さんはスラックスにカッター。そういった事務系のお仕事なのかなあなんていうことを思いながら、小走りで走っていくお父さん。お父さんの車は、失礼ながらちょっと泥がついていて、洗車もあまりされていないみたいでお忙しいのかなと。そして、朝の忙しい時間帯に子供を送っていく姿、そして子供はここにこしながら父親に抱かれている姿を見まして、思わず僕は車の中で「お父ちゃん頑張れ」というふうに出ました。

私たちは教育委員会として、学校の教職員、校長への想像力を働かせながら、学校が

心配なく安心して仕事ができるようにということは思うんですけども、その先の家庭にもやっぱり想像力を働かせるべきだなあと感じました。懸命に子育てをされている親さんへの共感というか、想像力というものを働かせることが大切だなあとということも同時に思って、ぜひ教育委員さんにこのことをお伝えしたかったのですが、何げない風景だったかもしれませんが、何か元気をもらったような気持ちでした。ということで紹介をさせていただきます。1点目です。

2点目は、5月10日、市町村教育委員会連合会の総会が行われまして、オンラインではなくて実際に集合して対面で行われました。ここで、箆橋前教育長の表彰が伝達されましたので、表彰状を持って私が代表でa1aに出向きまして、前教育長にお礼を改めて申し上げて、表彰伝達をさせていただきました。御承知おきください。これが2つ目です。

3つ目ですが、5月11日から13日、全国都市教育長協議会総会ということで、全国教育長会が3年ぶりに開催をされました。オンラインではなく、山口県まで行ってまいりました。初めての全国の教育長会でした。

大変いろんな意味で刺激を受けてきたわけですが、その中で文部科学省の課長が、行政説明を2時間以上かけて話をされました。そのときの冊子を今、事務局内で回覧中です。日本の教育の今日的課題が網羅されている資料だと思っています。書いてあることは日本の教育の課題なんですけれども、イコール岐阜県の教育の課題でもあるなあということも思いましたので、それぞれの担当部分を読まれて、ざっと目を通して、今後この方向でいろんな通知文書、指導がなされるんだろうなというような心積もりを持っていただけるとありがたいですし、もっと言えば、さらに先手を打つということで、ここに書かれている課題を可児市としてどう取り組めばいいんだろうかというような見通しを持っていただけると、さらにすばらしいのではないかなと思っています。

また、2人の教育長さんが代表で実践を発表されておられました。詳細は割愛させていただきますが、それぞれ市の課題を教育長として受け止めて、組織的な動きをつくって、課題解決のために邁進しておられる姿に大変刺激を受けました。

最後、宿と会場をつなぐバスの席で、偶然隣に座られた方とお話をする機会がありまして、同じ山口県の岩国市の教育長さんなんですけれども、岩国市の面積は可児市に比べてかなり大きいようです。町村合併があり、かなりの大きな市になったようですが、児童・生徒数は9,000人だそうです。だから、可児市とそんなに変わらない。可児市は今年度8,100人弱ですので、そんなに変わらない。どうも3割、4割程度が小規模校で、複式学級を編制せざるを得ないような学校が多いようです。そういった学校で、課題が可児市と似ているような課題もあるし、それぞれに独自の課題もあるなあなんていうことを思いながら、お話をさせていただきました。

初めての全国の教育長会でしたが、大変刺激を受け、勉強させていただきました。また皆さんと情報を共有しながら、可児市の教育に還元できるような動きもつくっていききたいなあと思っていますので、よろしく願いをいたします。

私からは以上でございます。

教育委員報告

○ 教育長（堀部好彦君） 続きまして、教育委員報告でございます。

○ 教育委員（丹羽千明君） おはようございます。よろしく申し上げます。

まず1点、4月20日に、a1aの小劇場におきまして堀部教育長と籠橋前教育長、それと前兵庫県豊岡市長の中貝さんの3人の方による座談会で、いろんな文化センターをいかに使うかということで、題が「まちが元気になる処方箋」を聞かせていただきました。今後、a1aを本当にどういうふうに使っていくかということが参考になりましたし、a1aを使わないと本当にもったいないなと感じました。また、豊岡市は先進地ということで、ぜひ私も一度行ってみたいなと感じました。

それから、私の地元の今渡のことなんですけれども、地区センターまつりが今年もコロナの関係で中止となりまして、その代わりに昨日ウオークラリーがございました。木曾川左岸と多目的広場というすごくいいところことができました。参加者が200名近くのにぎやかなウオークラリーの手伝いをさせていただきました。

それから、お手元に委員の皆様にご覧いただきまして、「今渡のじまんとほこり」ということで、これは1年前にできたものですが、評判がよく、増刷されたので、見ていただきたいと思って今日は持ってきました。

「可児のじまんとほこり」というのは以前出ておりますけれども、これは今渡に特化し作ってございますので、ぜひ御一読いただければと思います。これは今渡の各戸に配付されて、また小学生にも配られているということですので、よろしく申し上げます。以上でございます。

○ 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。

a1aの会議につきましては、お忙しいところ御参加いただきましてありがとうございます。まちづくりということがテーマでした。私は学校教育の立場から出たんですけれども、折しもコミュニティ・スクールの動きがありますので、コミュニティ・スクール、イコールまちづくりであるという観点から、私の夢を少し語らせていただきました。本当にありがとうございました。

また、地区センターまつりなんですけど、帷子地区センターまつりが先般行われまして、日曜日、私行ってまいりました。食事以外は、通常のこれまでにやってきたようなスタイルで、展示だとか、子供たちを寄せた遊びだとかがなされておりました。今後こういったこともまた再開されるのかなあと考えておるんですが、それぞれ地区の御事情等ありますので、いろいろかなあと考えております。

また「今渡のじまんとほこり」、私もこれ以前読ませていただきました。「可児市のじまんとほこり」が可児市から出されたときに、市長は、これがそれぞれの地区に広まり、それぞれの地区で自慢と誇りについて見詰めていただけるようなことがあるといいよねという話をされていたことを思い出しました。すばらしい冊子だなあと考えております。ありがとうございます。

○ 教育委員（長井知子君） おはようございます。

私は、可児市特別支援連携協議会という会議に出席させていただきました。その会議は、30名ほどの支援学級の先生方が出席されている会で、会長ということで挨拶をさせていただきました。

私は、以前に岐阜県のPTA連合会で発達障害の子供について勉強させていただく機会があり、そのときにびわこ学院大学の先生がおっしゃったことをお伝えさせていただきました。先生が言われていたのは、生きづらさを感じている子供は、大きくなるまでに支援を受けることでかなり成長することができる。だけど、この生きづらさを見逃したり、分からずに大人になってしまった子供は、社会に出たときに人とのコミュニケーションがうまく取れなかったり、物事がうまく進まなかったりして、ひきこもりになったりだとか、会社に行けなくなったり、そういうことが起こります。だから、小さいうちから支援を受けられることはすごくいいことで、幸せなこととおっしゃっていました。

可児市では、700名近い通級に通っている子供や支援を受けている子供たちがいますが、その数は保護者の皆様方の理解が進んだということだけでなく、教育に携わる先生方の努力のおかげかなという思いもあります。これから支援を受ける子供たちや学校に行けない子供たちのために、これからも精いっぱい努めさせていただきたいなと思っています。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

今おっしゃった会議、私も挨拶をさせていただいて、次の会議があったので、すぐに出てきてしまって、長井委員のお話を伺えなくて大変残念でした。いつも長井委員は、この教育委員会の会議の場でも、不登校の児童・生徒、それから特別支援学級に在籍するような子たち、マイノリティーの児童・生徒に関わる御発言が結構あるので、ありがたいなあと考えております。今後もそういった見方で、例えば学校訪問等、マイノリティーへのまなざしを学校はどの程度向けているかというような視点でお話をされ、御指導いただけると大変ありがたいなあと考えております。よろしくお願ひします。

○ **教育委員（伊藤小百合君）** おはようございます。よろしくお願ひいたします。

4月19日に第1回幼保小連携推進会議に出席しました。こちらのほうの中にある幼保と小学校の連携協議会が2年間できていなくて、ずうっと中止だったそうです。結局何も交流ができていなかったりとか、連携が滞っている状態が続いていることで、今年度は教育研究所が中心になって、時間を短縮したりとか、接触機会を減らしながら、何とか会議をできるようにという方向で今考えているというお話をされておりました。

教頭先生やいろんな方々が出席されていたのですが、中学校に小学生が進学するときに、6年生の担任の先生と中学校の先生が話し合っただけでクラスを決めると言うんですけども、その小学校バージョンというんですか、幼保の先生方と小学校の先生が話し合いをしてクラス決めをすると。特に支援が必要な子に関してという話だったんですけど、やっぱり各園によってその支援の差がある。同じ支援が必要でも、程度が違うということで、それをうまく分散させるというか、どういうふうに支えていくかという話し合いをしながらクラス決めをしたというお話を聞きまして、ああ、すごくいいことだなあと思いました。初めて聞かせていただいたので、小学校に入る前に、大きい学校だとなかなか難しいのかもしれませんが、できれば必要なことなのかなあと聞いてきました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

私、先ほど全国都市教育長会のお話を少しさせていただきましたが、そこで文科省の

課長の行政説明が2時間以上あったという話をしましたよね。そこでの話の中で、冊子を使いながら何項目かの話があったんですが、その中に幼保小の連携がきちっと位置づいていて、幾つかある中でも幼保小についての話は力を入れて課長はしゃべってみえるなという感じがしました。今、本当に国の大きな課題として捉えているようです。

今おっしゃったような連携をしていくために、架け橋プログラムと呼ばれる国の事業がありまして、可児市はそれを受けておりますので、東明小学校と東明小学校に通う幼稚園・保育園全部で4園1小の連携がスタートしました。研究所の清水指導主事が頑張ってくれているので、幼稚園・保育園と小学校が、子供たちのどのような笑顔のもとを育ていけばいいのかということの共通理解をするということが、私はこのプログラムの、可児市のこのプログラムの趣旨じゃないかなあと思っています。

これは大変期待をしている取組のうちの一つですので、ぜひ伊藤委員さん、進捗の状況を把握されて、ここでも話題にされ、協議すべきことがあったら御提案をしていただけると大変ありがたいです。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

議事

- **教育長（堀部好彦君）** 次に、議事に入ります。
- **事務局長（渡辺勝彦君）** それでは、議案書を御覧ください。
表紙の裏ページの目次のとおり、本日は報告が1件、議案が2件です。
報告第8号 可児市学校給食センター運営委員会委員の解嘱及び委嘱について、議案第14号 令和4年度岐阜県教科用図書可茂地区採択協議会の設置について、議案第15号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上よろしく申し上げます。
- **教育長（堀部好彦君）** 議案第15号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、その他の児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録については、意思形成に関わる案件や、個人情報、プライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。
〔「異議なし」の声あり〕
ありがとうございます。異議がないようですので、この件については非公開といたします。
報告第8号 可児市学校給食センター運営委員会委員の解嘱及び委嘱についてを議題といたします。
- **学校給食センター所長（佐藤一洋君）** それでは、1ページを御覧ください。
報告第8号 可児市学校給食センター運営委員会委員の解嘱及び委嘱について。
可児市学校給食センター運営委員会委員の解嘱及び委嘱について、次のとおり専決処分したので、これを報告し、承認を求めます。令和4年5月23日提出、可児市教育長 堀部好彦。
記、専決処分書。
可児市教育長に対する事務委任規則第4条第2項の規定により、次のとおり専決処分する。令和4年5月17日専決、可児市教育長 堀部好彦。
記、可児市学校給食センター運営委員会委員を次のとおり解嘱及び委嘱する。
解嘱委員、1. 氏名、長沼恵子。解嘱理由、子育て委員会代表の退任による。解嘱日、

令和4年5月17日。

委嘱委員、1. 氏名、山田未紗。委嘱理由、子育て委員会代表の就任による。委嘱期間、令和4年5月18日から令和5年3月31日（前任者の残任期間）です。

2 ページを御覧ください。

解嘱委員、2. 氏名、多治見ひとみ。解嘱理由、子育て委員会代表の退任による。解嘱日、令和4年5月17日。

委嘱委員、2. 氏名、竹原美穂。委嘱理由、子育て委員会代表の就任による。委嘱期間、令和4年5月18日から令和5年3月31日（前任者の残任期間）です。

P T A 連合会の委員が5月17日に替わりましたので、前代表を解嘱し、新代表を委嘱するものです。

なお、令和3年度まで母親委員会となっていましたが、令和4年度からは子育て委員会に変わりました。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ただいまの事務局の説明について、御質問、御意見等ありますでしょうか。

よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

特にないようですので、この件については原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については原案のとおり承認をいたします。

続いて、議案第14号 令和4年度岐阜県教科用図書可茂地区採択協議会の設置についてを議題といたします。

- **学校教育課長（佐野政紀君）** 議案書の3 ページを御覧ください。

議案第14号 令和4年度岐阜県教科用図書可茂地区採択協議会の設置について。

可茂採択地区内の各市町村において、種目ごとに同一の教科用図書を採択するため、「岐阜県教科用図書可茂地区採択協議会規約（案）」を承認し、令和4年度岐阜県教科用図書可茂地区採択協議会を設置することに同意する。令和4年5月23日提出、可児市教育長 堀部好彦。

記、岐阜県教科用図書可茂地区採択協議会規約（案）、別紙のとおりです。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ただいま説明いただきましたが、これについて質疑、御意見等ありますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

特に御意見ないようですので、この件は原案のとおりとすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については原案のとおり承認をいたします。

各課所管事項

- **教育長（堀部好彦君）** 各課所管事項に入ります。

- **事務局長（渡辺勝彦君）** それでは、私からは議会の関係と給食センター関係でお

話がございます。

まず議会の関係ですが、先日5月10日に臨時議会が開催されました。国が進める4回目のワクチン接種に必要な予算について補正するもので、即日議決されましたので、よろしく願いいたします。

それから、第2回定例会6月議会について御案内させていただきます。

議会の開会は5月27日になります。一般質問は6月8日、9日、予算決算委員会は6月13日、教育福祉委員会は6月16日で、閉会は6月23日という日程になりますので、よろしく願います。

一般質問に関係する事項などについては、6月の会議で報告いたします。

本来であれば今日御提案できればよかったですのですが、今回の6月補正に、給食関係で新聞でも取り上げられているように材料費が高くなる関係の補正を急遽つくっております。それについては6月議会に提案させていただく予定をしております、6月の教育委員会会議で報告させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

それから、給食関係でもう一点、金曜日に教育委員の皆さんにも御連絡させていただきましたが、御心配させてしまったかなと。金曜日の給食の「麩のすまし汁」にプラスチック片が入っていたということで、大変心配なところでしたが、幸いなところに発見されたのは給食センター、それからこれを食べたとか、健康被害の報告は受けておりません。御心配をおかけしました。

それから最後です。5月10日の給食で、市制施行40周年の記念の学校給食が提供されて、可児で取れた黒豆を混ぜた御飯とか、可児のみそを使ったみそ汁、それからデザートに、市制施行40周年を記念したシールのついたバウムクーヘンなどがデザートとして提供されています。私と教育総務課長、学校教育課長も食することができました。大変おいしかったので、御報告させていただきます。今後も同様の企画を考えておりますので、よろしく願いいたします。

私からは以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** 40周年の企画につきましては、第2弾、第3弾とあるので、教育委員さんも一緒によろしければ御案内させていただきます。次の日程が決まったら飯田課長を通じて連絡して、もし時間が合えばよろしく願います。

- **教育総務課長（飯田晋司君）** 私からは2点お話がございます。

1点目、教育委員の学校訪問ということで、お手元にお配りしましたA4横書きの表になっているものを御覧ください。

令和4年度教育委員学校訪問日程表でございます。委員の皆さんの御都合とか、学校の都合を確認して、この日程表のとおり予定を今現在組んでおります。

皆さん、御都合はいかがですか。

この前お聞きした状況で恐らく大丈夫かなと思います。また何かございましたらお教えいただきたいと思います。

それから、訪問の際の懇談でございますが、学校において困っていることや課題、不登校児童・生徒の現状などについてお聞きする予定でございます。ほかに何かこういったことをテーマとして聞きたいといったようなことがあれば、御意見伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

5月中、今月中には案内文書、それから資料等を委員の皆様にもお送りして、詳しくお伝えしてまいりますので、御承知おきをお願いいたします。

続きまして、2点目、教育委員の視察でございます。資料はありませんが、今、コロナ感染の状況がなかなか見通せない情勢の中で、去年は日帰りで実施しましたが、今年度も何とか開催・実施したいと考えております。希望する視察先等があれば、また御提案いただきたいと思います。委員の皆様の御都合をお聞きして、9月までの期間で実施したいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。以上でございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

教育委員さん、学校訪問につきましてよろしくお願いをいたします。お忙しいかと思いますが、何とぞよろしくお願いをいたします。

どの学校も、4月、すばらしいスタートを切れた令和4年度ですが、ゴールデンウィークを過ぎまして、そろそろどの学校もいろんな問題が表面化してきている、児童生徒の人間関係等ですね。そういった時期です。そういう中でも、それぞれの学校、本当に一生懸命やっただいておりますので、それぞれ教育委員さんが児童生徒の姿だとか、先生方の姿を見た事実を基に、学校の頑張っているところを応援していただけると大変ありがたいです。よろしくをお願いいたします。

○ **学校教育課長（佐野政紀君）** 私からは、4月19日以降の学校に関わる動きをまずお伝えします。

コロナ対策については、これまでの実践を踏まえて、健康チェック、消毒などを継続しています。授業においても、マスクの着用とともに、学習の方法について、近距離・長時間対面するグループ活動を避けるなどのリスクを減らした活動を継続しております。

4月始まってから、新型コロナウイルス感染症に係る動きが出ておまして、対応を進めていますが、陽性が判明した学校は15校です。今のところ、学級閉鎖の対応につきましては、先週末20日まで、269件のコロナに係る陽性判明の情報を受けて対応しています。

5月、集団検査を受検した学校は、今渡北小学校、土田小学校、南帷子小学校の3校です。学級感染のおそれがある場合、4名以上が基準となりますが、それに該当したということになります。

修学旅行につきましては、感染対策を十分に行い、実施をする方向で考えています。中学校では、5月下旬に1つ、6月下旬に1つ予定している学校がございます。

最後に、今年度可児市に迎え入れた初任者の先生の奮戦ぶりを、お時間をいただいて紹介させていただきます。

可児市は28名の教職員を迎え入れました。可児市の研修があった際に作文を書かせたわけですがけれども、その作文を読み上げます。

題は「教師になって」です。

教師になって感じていることが2つあります。1つ目は、教えることの難しさを心の底から感じています。私が教師になろうと思ったのは、教えることが好きだったからでした。教壇に立って2週間、私の発問に対して子供たちが答えることができないと、ああ、今の伝え方、難しかったかなあ。どう言えばよかったのだろうと思うばかりです。教えることが好きだなんて言っていた自分が情けなくなりました。分かりやすく子供た

ちに伝えることが目標だなと感じています。ほかの先生の授業のまねをしたり、話を聞いたり、ユーチューブを視聴して勉強しています。

2つ目は、教師になって、隣のクラスと自分のクラスを比べてしまい、隣の芝が青過ぎて苦しくなることがたくさんあります。初めてだから仕方がないと言い聞かせても、涙が出てきます。誰かに苦しい気持ちを言いたいけど、もう学生ではないので、甘えることができなくて、母に八つ当たりして悲しくなってしまうと、また涙が出ます。

終わらない仕事、残業は当たり前。分からないことだらけで、明日すらよく分からない毎日。正直今はこんな状態なので、1年間やり切れるのかも不安でメンタルは沈むことが多いです。

ポイントはここからです。

そんな中でも光があるのは、自分のクラスの子がかわいくて仕方ないからです。特に印象に残っているのは、クラスの黒板に、教室は間違える、何の心配も要らない、大丈夫と貼っており、それを見ていた子供たちが、「先生、頑張っているからいいよ。遅れるときもあるよ」と声をかけてくれたことです。子供たちに助けてもらう分、誰よりも子供たちの味方である、そんな教師を目指しますという作文です。

5月末から6月末にかけて教育長訪問を展開していきます。しっかりと初任者についても見届けをしていきたいと考えております。

私からは以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** 大変誠実な初任者の生の声を伺ったんですけれども、本当に心から応援してあげたいなと思います。教育長訪問、私も十分応援をしていきたいなあとと思いますし、繰り返しになりますが、教育委員さん方も、そういった誠実な教職員の支えになっていただけるよう何とぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

- **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** お願いいたします。

それでは、別冊のホチキス留め資料です。教育研究所よりを御覧ください。

2ページ目の表面からお願いします。

今、課長からもお話がありましたが、初任者に関わってです。

市の初任研ですが、前回会議で口頭での説明でしたので、資料として報告させていただきます。

4月に、第2ばら教室で授業参観及び若原室長からの講話、また佐野課長から可児市の教育についてということでお話をいただきました。研修後に書いてもらったレポートを幾つか載せさせてもらいました。

ここで1つ紹介いたします。一番上です。

自分が受け持つクラスにも外国籍児童が複数在籍しており、指示が伝わらなかつたり、うまくコミュニケーションが取れなかつたりするために悩んでいました。しかし、絵や図を用いながら丁寧に説明したり、ジェスチャー等で分かりやすく伝えたりするなど、自分でも明日からすぐに取り入れることができるなあと感じました。今回の研修で得た学びや気づきを実践していきたいですというレポートです。

このレポートからも分かりますように、児童・生徒の一人一人のニーズに合わせて、ゆっくり話をするとか、絵や図を使って分かりやすく話していくというのは、外国籍の

子はもちろんかもしれませんが、全てのお子さんに対して、教師として大事にしていかなければならないことです。こういうことを初任の先生たちが学んでくれたことは、とても有意義な機会になったなあということを思っております。

初任者の今後についてですが、ゴールデンウィークが明けて2週間がたちました。疲れが当然どっと出てくる時期です。先ほど課長が読んだ所感にもあったように、やっぱり悩みは尽きません。そのため、市の担当者としても、会議等で校長先生に会うときなどは、初任者はどうですか、ということを知いたり、先週の金曜日には拠点校指導員の先生ともお話しする機会がありました。頑張っているよという話、よくちゃんと毎日通っているよという話もある中で、やっぱり疲れが出ているということもちろちら聞きますので、私としても声をかけるサポートをしていきたいなあと考えておりますので、よろしくお願ひします。

もう一つお話をさせてください。

3枚目です。

先日の研究所運営委員会でお話をさせていただきましたが、研究所、今年度特に力を入れて行う6つの業務を「笑顔の“もと”」重点事業としまして、一番上の箱にあります1から6のように挙げさせていただきました。

先ほど教育長や伊藤委員さんから話があった幼保小連携について、また長井委員さんから話があった特別支援の部分についても当然含まれております。その進捗状況、少しだけお話をさせてください。

1つ目、不登校対策で、よりよい認知を育む心理教育プログラムということで、今年度、全小・中学校を川原スクールカウンセラー・スーパーバイザーに回っていただきながら、次のページからあるようなエクササイズを各校で紹介していただきます。それを取りためていき、来年度、令和5年度から各学校で計画的に進めていくように、一つのプログラムとしてつくりたいと思っております。

4月、川原カウンセラーに講演をいただき、このプログラムの重要性について、各学校の代表の先生方にお話をしてもらったところです。

もう一つ、ICT教育についてです。GIGAスクール構想、各校の課題に応じた支援を行うというところです。昨年度たくさんのお金をいただきまして、各学校にいろいろな機器を導入しました。各学校の先生方、本当に一生懸命やってくれて、初年度とは思えないぐらいの活用率で成果を出していただいております。しかし、現場には、もうちょっとこういうふうに使えたらどうだろうとか、ここはどういうふうになっているのだろうという、声もいただいているところです。

そこで、四角に囲みました一番下です。

令和4年度小中学校GIGAスクール運営支援センター業務ということで、具体的には全16校を毎月1回2時間程度、サポーターが回りまして、授業に実際に入って支援を行ったりだとか、また必要なことを研修したりだとか、そういうような対応を行います。1校につきまして毎月1回2時間ということは、年間にとすると24時間程度のサポートを受けられるということになりますので、今年度、各学校の課題に応じた支援を行ってきたいなあと思っております。よろしくお願ひします。以上です。

○ 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。

「笑顔の“もと”」重点事業、6つきちっと束ねていただいて、分かりやすく説明をいただきましてありがとうございます。

この重点事業について、教育委員会会議や、研究所の運営委員会だけではなくて、校長会やそれぞれの担当の協議に、この6つを今年重点として、笑顔のもとを育む取組を研究所として頑張っているんだよということを上手に宣伝していただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。

○ **学校給食センター所長（佐藤一洋君）** このたびは、金曜日、異物混入ということで、皆様には大変御迷惑、御心配をおかけしまして誠に申し訳ございませんでした。

原因については現在調査中です。混入した異物は、先日お知らせしたとおり、プラスチックの破片です。何かのパーツの破片のように思います。それがちぎれて先っぽがとがっている形になっています。給食センターの中で調査をした限りでは該当するものが見つかりませんでした。食材の納入業者にも現在照会中ですが、今のところ見つからない状況です。麩のすまし汁の中に韓国産のワカメが入っていたのですが、海藻類がひょっとしたら可能性高いかなということで、業者を通じて、韓国のほうにも照会をかけています。

あと、既に12時半頃には全ての学校に喫食中止の連絡はできましたが、小学校の1年生など、早く食べ始めた児童生徒もいたということ、それから教職員で早めに食べた方とか、校長先生の検食などの形で口にした方も見えたということで、16校のうちの14校で既に喫食していたという状況でした。

各学校に照会をかけたところ健康被害の報告はありませんでした。また、学校の汁の中から同じような異物が見つかったという報告も受けておりませんので、恐らく今回は給食センターで見つかったもの1個だけではないだろうかと思っています。またこの後、新しい情報が入りましたら報告させていただきますので、よろしく願いします。

それでは、あと4つほどございます。

お配りしました資料の令和4年度給食用物資購入選定委員会名簿を御覧ください。

こちらは、令和4年度の本委員会委員につきましては、4月の教育委員会会議にて報告させていただいたものでございますが、PTAから選出される委員が替わりましたので報告します。

名簿中、網かけのない方、ナンバー17からナンバー23までの7名が替わりました。任期につきましては、上の星印にあるとおり、令和4年5月18日から令和5年3月31日までということになります。

続きまして、資料の令和3年度給食費収入明細を御覧ください。

学校給食費の収納状況についての報告になります。4月の教育委員会会議で過年分の状況を報告いたしましたが、今回は令和3年度分の4月30日現在の状況を報告します。

調定額は4億3,357万8,792円、収入額は4億3,044万4,219円、不納欠損はなし、収入未済額が313万4,573円です。収納率が99.3%となります。

決算は5月末現在で締めますので、収入額については、決算が固まるまでに若干の変動があると思います。令和2年度の収納率は99.5%でした。比較すると、0.2ポイント下がっております。このことをどう評価するか、下がった原因などは何かといったことは現在検証しているところでございます。

続きまして、お配りした新聞のコピーです。「“可児の味”子ども笑顔」という先ほど事務局長からもお話があった40周年記念献立でございます。局長から報告いただいたとおりでございます。これは岐阜新聞のコピーで、裏面は桜ヶ丘小学校がホームページに翌日上げてくれたものになります。学校だよりみたいな形で作っているものの1枚になりますけれども、非常に楽しそうに食べている様子がうかがえるのではないかと思います。

この中でちょっと面白いなと思ったのが、バウムクーヘンに40周年のロゴマークをシールにして貼ってあったんですけど、それをきれいに剥がして連絡帳に貼ってくれた子供がいたそうです。非常にほほ笑ましい感じがして、いいなと思ったところでございます。

先ほどもお話があったとおり、あと2回、40周年記念献立を予定しております。また事前にお知らせいたしますので、次回ぜひ皆様も一緒に食べていただければと思いますので、よろしく申し上げます。

それから本日記りました、写真が2枚ついた資料を御覧ください。

これは、このたび十六銀行とライクスタカギさんから寄附を受けることになりました。十六銀行の私募債という会社が資金を集めるための制度ということなんですけれども、私募債というのをライクスタカギが十六銀行で作りまして、その手数料の一部を学校関係に寄附できるというような仕組みになっているようでして、ライクスタカギさん、御存じかと思いますが、可児市内に本社があって、豆腐等製造でかなり東海地方でも有名な会社と聞いておりますが、食品関係ということで、給食センターへ10万円相当の現金の寄附をしたいとお話がありました。

こちらでも考えまして、この写真にあります業務用のしゃもじ5本、それから中心温度計という、給食を作って、出荷する前に温度を測って検査する。殺菌とかいろんな理由があるんですけど、そのための温度計が1台ということで寄附をいただくと。合わせて約10万円ということになりますけれども、いただくことになりました。

こちらは5月25日、今度の水曜日になりますが、寄贈式を行わせていただきまして、こちらで正式に寄贈という形になりますので、報告をさせていただきます。

私からは以上でございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

今お話がありました寄贈式につきましては、私も出席をさせていただいて、お礼のお話をさせていただきたいと思っております。いろいろ寄附があるんですけども、私どもが本当に大切にしている学校給食につきまして光を当てていただいたことに感謝をしたいなと思っております。

それでは、今各課から報告等ございましたが、御質問、御意見ございますでしょうか。よろしく申し上げます。

○ **教育委員（丹羽千明君）** 学校教育課長にお尋ねします。

屋外でのマスク着用について、国から指針が出たばかりだと思いますけれども、文科省から何かありますでしょうか。あと今現状、通学とか体育の授業で、マスクはどのような指導か確認したいんですが、お願いします。

○ **学校教育課主任指導主事（上北泰久君）** 文部科学省からは、正確に確認しており

ません。またあったらすぐに連絡したいと思っております。

それから、今のことを踏まえた体育の授業や屋外の場合には外してもよいということで、昨年来、学校には連絡しております。なので、体育では熱中症のことも、これから大変暑くなってきますので、マスクを外して体育の授業を行う。それから通学についても、暑かったら取ってもいいよと。でも、基本的には、まだ学校は文部科学省からの指示が来ていないので、基本しゃべらないということを前提に、暑かったら距離を置いて外してもいいよという流れの中で今のところは来ております。今後、先ほど申しましたように、文部科学省からまたいろいろお話があったところで確認をして、学校にもしていきたいと思っております。

○ **教育委員（丹羽千明君）** ありがとうございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** 今後、文部科学省からの通知等があった場合、この場でも教育委員さんとも情報を共有したいと思いますので、文書を出していただけるとありがたいです。今、委員からの話があったということでよろしくお願ひします。

ほか、よろしいですか。

○ **教育委員（長井知子君）** 先ほど新卒の先生の作文をお聞きして、すごく胸が……。今までPTAとかやっていると、学校の先生方の裏側が見えたりして何となくは分かっていたんですけど、そういった新卒の先生の苦悩だとか、そういったのが初めて分かりました。きっと自分の同期や友達とかにいろいろ話して弱音を吐けると思いますが、弱音が吐ける場所があることで、人って頑張れると思います。自分の子供と同じような年齢なので、胸が……。

○ **教育長（堀部好彦君）** 母親の気持ちでも聞けたということですよ。よく分かります。本当ですね。

特に小学校の教諭というのは、仕事に就いた途端にベテランと自分が同じところで放り出されて、仕事が回ってくる。学級担任としては、親さんから見れば同じですからね。そういう中で奮闘しておられるということです。本当に繰り返しになるんですけども、学校訪問で、初任の先生が頑張っておられる姿を、特にうんと褒めてやってほしいなと思います。

伊藤委員、どうですか。指名して申し訳ありません。せっかくです。

○ **教育委員（伊藤小百合君）** 先ほど、最初の委員の報告で架け橋プログラムの話をするのを忘れていたんですけども、小学校と幼保でまだ連携がうまく、2年間ブランクが空いているので取れていないということだったんですけど、架け橋プログラムをすることによって、東明小学校とトキワ幼稚園とか瀬田幼稚園とか、関係する幼保のところに必ず、どういう形になるかは別としても、やるという話でしたので、それを踏まえて周りの幼保小と連携してやっていってほしいなと思います。

○ **教育長（堀部好彦君）** そうですね。ブランクがあるというね、コロナ禍で協議会自体がね。でも、そこからのスタートですので、この架け橋プログラムを進めていくのはなかなか難しいところもあるかもしれないなと思いますが、三宅主任指導主事さん、今、進捗状況として報告すべきところがあれば、ちょっと付け足しをお願いします。

○ **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** 先週ですが、可茂教育事務所の所長と担

当指導主事の方が東明小学校にいらっしやいまして、教育委員会からは私と市の担当指導主事の清水と、東明小学校の校長先生、教務主任の先生と会議をしてまいりました。

その中で、可児市の、伊藤委員が今おっしゃったような2年間ブランクがあるんだけど、こういうことをやっていたと。今年は復活して、こういうことをやりますというような話をしました。

そんな中で、可茂教育事務所長からは、そういう今できていないが、今後復活してくるような会議とか、そういう動きをどんどん紹介してくださいと。それがまずはきっかけとなって、その質を上げていくような架け橋プログラムにしていきたいという話がありましたので、スタートはしていないんですけども、今までやってきたことを、コロナがどうなるか分かりませんが、きちんとやりながら、さらにその質を高められるような動きをしていきたいなということを考えて、その会議を終えてまいりました。

例えば、まだ素案の段階ですけども、先ほど申しました、よりよい認知を育む心理教育プログラムも、不登校対策ということだけではなくて、広い意味で子供の適応支援と捉えたときに、小学校からではなくて、もっと言えば、幼稚園・保育園、小学校がこういう『笑顔の“もと”』を育みたい。だから、こういうエクササイズをやったらいのではないかという可児市としての動き、大きな動きにならないかなあと思いながら進めていきたいなと思っております。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** 今の主任指導主事の見方はとてもありがたいです。そういった動きをぜひつくってってください。

それから、教育事務所の所長が学校にじきじきに出向かれて、説明をされるなんていうことは、私としては異例中の異例というイメージです。そのくらい、この架け橋プログラムに関しての国や県の期待は大きいということだろうなと感じました。ありがとうございました。

では、いろいろ御意見いただきましてありがとうございました。

そのほか。

- **教育委員（丹羽千明君）** 3月の教育委員会会議のときに発言させていただいたんですが、コミュニティ・スクールを進める上で、エール広陵さんと意思疎通をしてくださいというようなことでお願いしましたところ、会議を開いていただいたようですので、そのときの内容と、あと課題についてまた何かありましたらお願いしたいと思うんですが。

- **学校教育課主任指導主事（上北泰久君）** お願いします。

4月の終わりに、全体の報告会に参加させていただきました。その折に、昨年度のエール広陵についての活動報告を確認し、そして今年度の方針等を確認させていただきました。私は、その会議に参加して、エール広陵の活動について学ばせていただきました。

エール広陵は、基本的に学校運営協議会に近い本部的な役割をしております、「見守りたい」や、その他「寄り添いたい」とか、そういう活動をやってみえるということで、その辺りについて説明を受け、これはまさに学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の活動を行っているなということも思いましたが、その後、小野口さんと、それからもう一人加木屋さんと私、臼田校長先生の4人で、以前3月のときに私は参加でき

なかったんですけれども、この教育委員会会議の内容についてお話をいただいたということで、エール広陵とコミュニティ・スクールのことについてのお話をさせていただきます。

結論、大きく幾つかあるんですけれども、エール広陵とコミュニティ・スクールの違いではないんですが、規則のことについて、まず委員さん、エール広陵は7名、その委員さんで行いたいなということのお話をいただいたこと。それから報償費のことについて。それから、エール広陵の活動がそのままコミュニティ・スクールの活動にどのようなになっているのかということについて、教育委員会としてのお話をさせていただき、小野口さんをはじめお二人の方については、そこでまず御理解をいただき、話をいただきました。

そして、今度そのお話を基にして、5月13日金曜日に今度は7名の方、お一人欠席だったんですけれども、役員の方に集まっていたいただき、そこで市のほうから再度、可児市のコミュニティ・スクールのお話をさせていただきます。その中で、エール広陵についての内容とコミュニティ・スクールの説明をする中で、さらにここで深めていかなきゃいけないということをお話しいただいて、先日こちらの事務局長さんと、それから事務局長と課長にも話をし、今後またコミュニティ・スクール、それからエール広陵についての話を確認する場を持ちたいなと思っている次第です。

御理解いただいているのは、エール広陵の活動が本当にコミュニティ・スクールの活動になっているんですけれども、こちらの可児市のコミュニティ・スクールとエール広陵のところでは上手にうまくできる中において、もう一度お話をする場を持つことが必要だということを感じました。

- **教育委員（丹羽千明君）** 分かりました。
- **教育長（堀部好彦君）** 今一番の課題は、エール広陵の方々が誇りを持って、長年ずうっと広陵中学校の生徒たちのために頑張ってきておられる、この事実をきちっと受け止めて、エール広陵の方々の志をしっかり受け止めた上でコミュニティ・スクールについての御理解をいただくと。やっぱりどうしても自分たちがやっている活動に新しい活動が入ってくると、自分たちの活動は今まで自由というか、自分たちがやりたいことができなくなるというふうに捉えてしまうことが当然あるかと思うんです。なので、エール広陵の方々のこれまでの取組と、考えや誇りに思っておられることをまず十分理解していくことが大切じゃないかなというふうに思っております。これを一番に考えております。
- **教育委員（丹羽千明君）** ありがとうございます。
- **教育長（堀部好彦君）** ほか、よろしいでしょうか。
〔挙手する者なし〕

委員からの提案協議事項

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、ないようですので、次に教育委員からの提案協議事項についてを議題といたします。
何かありますでしょうか。
よろしいですか。

〔「なし」の声あり〕

ありがとうございました。

その他

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、次にその他の次回の日程等について。
- **教育総務課長（飯田晋司君）** 先月決めていただきました、6月20日月曜日午前9時からということをお願いいたします。会場、場所ですけれども、ここではなく、4階第1会議室、東館のほうの大きい会議室になりますので、よろしくをお願いいたします。

また、7月の日程ですけれども、7月25日月曜日、いかがでしょうか。

よろしいですか。

〔「はい、大丈夫です」の声あり〕

では、よろしくをお願いいたします。

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、7月25日9時からということをお願いをしたいと思います。

では、ここで休憩とさせていただきます。あの時計で10時20分に再開したいと思いますので、よろしくお祈りをします。お疲れさまです。

休憩 午前10時07分

再開 午前10時20分

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、会議を再開いたします。

（以下非公開）

（以上非公開）

教育委員報告

- **教育長（堀部好彦君）** 小栗委員、本当にお忙しいところありがとうございました。
- **教育委員（小栗照代君）** すみません、会議ぎりぎりの時間になって申し訳ございません。
- **教育長（堀部好彦君）** 委員からの報告、いろいろあるかと思えます。突然で申し訳ありませんが、どうですか。
- **教育委員（小栗照代君）** 遅れまして申し訳ございません。ちょっと仕事の件で、急に申し訳ございません。

報告ですけれども、先月から特に教育委員としてはないんですけれども、もしかしたら今日お話があったかもしれませんが、給食の異物の件です。早くに気づいて、皆さんに対応していただけて本当にありがたかったなあと思えます。北九州のほうで異物混入の話が少し前にあったと思うんですけれども、そのときは、隠すわけではないんでしょうけれども、そのまま原因を追及しないで、継続にその食材を使ってしまって、また異物が発見されたというような、ちょっと考えられないようなことがありました。ちゃんとすぐに対応するのが当たり前なんですけれども、ただ、こういった行政もあるという

ことで、やはりちゃんとやっていただいている可児市はありがたいなあと思います。ただ、原因追及をしっかりと、今後ないようにしていただかなきゃいけないという話をしていただいたかなというふうに思います。

また、最近のニュースなんかを見ますと、ハラスメントの話題がよく上がっていると思います。例えば教育面で見ますと、運動部であったりとか、ブラック校則であったりとかというようなことで、暴力だったり、ハラスメント問題というのが結構最近取り上げられているなあというのがすごく私としては気になるところです。ハラスメントの定義というのも、もちろん昔と変わってきているので、そういう意味でも、今現在急激に変化している時期なのかなあと思っています。

これだけ取り上げられているというのは、指導という名目で、体罰とか、暴言というようなものが指導とか教育には当てはまるというのはもちろん認識としてどんどん浸透しているなというのはすごく感じています。一方で自分の子供のことを考えたときに、うちの子も今大きくなっているんですが、数年前から10年ぐらい前のことなんですけれども、例えばPTAの会長で学校にお邪魔するとき見かけたのは、給食を無理やり口を開けさせて食べさせている先生だったりとか、暑い日に体育の運動会の練習で組体操をしていて、すごく熱いのに手をついてやる組体操で、熱くて子供が手を離したら、熱いのを我慢してやりなさいという先生であったりとか、朝、仁王立ちして学校の前で立っていて、私から見るとあら探しのように思える校則で、ちょっとボタンが外れているとか、そういったことも逐次指導していらっしゃる先生が見えました。また、スポーツ少年団ですけれども、負けて、監督が小学生の子供たちに懇々と1時間も炎天下の中、こちらから見ると暴言じゃないのというようなことを発している保護者の監督を見かけました。私自身もちょっと問題じゃないのとか思いながらも、そのまま見過ごしてきてしまいました。今は多分ないだろうなと信じたいのですが、なかなか目につかないところだったり、そういうところであるかもしれないなあと考えたりしました。

なぜかといいますと、少し前にどこかで見たんですけれども、先生方、例えば給食のことでもそうなんです、子供たちに指導するときというのは、何を参考にしているかというようなアンケートを取ったというのがありました。結果を見ると、自分が小さい頃に学校の先生から受けた教育や、親から受けた教育を正しいと思って指導しているという先生の割合がかなり高くなっていました。そのアンケートの結果が本当に正しいのかどうかちょっと分からないんですけれども、そういった記事を見たときに、学校の授業で国語とか算数を教えるのは多分指導要領とかあるかもしれませんが、日常のことを指導されるところで、まだまだ先入観で、自分の受けた教育をそのまま伝えてしまっているということがもしかしたらあるのではないかと。これは、親が子供にするのももちろん同じなんですけど、先生だけを責めて言ったわけじゃなくて、自分自身もそういうところで反省しなければいけないところはいっぱいあると感じました。ただ、そういったことでトラウマになってしまったというようなことも子供たちにはあるので、給食であれば、全部食べなければいけないというようなことは、文科省は言っていないので、そういった基準をちゃんと、別に残してもいいんだよとか、そういったところを先生方にも見ていただいて、子供たちに御指導いただけたらいいなあということを思って、今日お話ししようと思いました。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。大変大切な視点を提供していただいたなあと思います。

先ほどから委員さんには、学校訪問が始まりますので、頑張って懸命に努力しておられる先生方の姿を、事実を基に、うんと褒めてあげてくださいという話をさせていただきました。それとともに、今のようなお話で、学校の指導に警鐘を鳴らすというようなことも当然必要だと思いますので、よろしくお願いします。

特に体罰等につきましては、おっしゃるとおりで、これは指導の仕方、何が根拠になっているのか。かつて自分が受けた指導が根拠になっている。それも、本人が十分自覚していないというようなこともあるのではないかというのは確かに思います。

今回、報道等で取り上げられている高校の体罰のことについても、それを取り上げた新聞の社説か何かで最近読んだんですけれども、おっしゃるとおりで、自分がかつて受けていた指導が正しいという認識の下、間違っただけの体罰等も含めて、間違っただけの指導をしてしまっているという実態があるのではないかという大学教授の提言がありました。これは、本当に私たちも気をつけないといけないということで、これは体罰の連鎖にもつながりますので、今、体罰を受けている子が将来指導の立場になったときに、またそれが繰り返されるということにもなるかと思っておりますので、私たち、心して状況を把握しておかなくちゃいけないなあと思いました。ありがとうございました。

（以下非公開）

（以上非公開）

閉会の宣告

- **教育長（堀部好彦君）** 以上で全て終わりましたので、これにて教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。

閉会 午前11時03分